

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成27年度農作物病害虫発生予察情報について

平成27年度農作物病害虫発生予報及び半月報を発表したので送付します。

平成27年度農作物病害虫発生予報第2号

平成27年5月18日
徳島県

I. 果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、春葉での発生は認められていない(平年同時期は発生圃場率が2.5%、発病度が0.0)。
- (2) 5月14日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では落花期に薬剤防除を行なう。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、春葉での発生は認められていない(平年同時期は発生圃場率が3.8%、発病度が0.01)。
- (2) 5月14日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行ない、その後1か月、または降水量200~250mm毎に防除を励行する。

かいよう病

1) 予報内容

発生量 平年並~やや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が62.5%、発病度が0.39であり、ほぼ平年(46.7%、0.2)並の発生である。
- (2) 5月14日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行ない、常発園や罹病性品種園では防除を励行する。
- (2) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年より早い

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生は5月14日に初確認された(平年:5月17日,前年:5月22日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は、IGR剤の場合、発生確認の10~15日後、有機リン剤の場合、35~40日後の時期である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並~やや少なく(前年並),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が50.0%であり、平年(39.8%)と比べてやや高めの発生であるが、寄生葉率は2.5%であり、平年(7.0%)と比べてやや低めの発生である。
- (2) 5月14日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと見込まれており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、発病葉率が0.1%、発病果率が0.1%であり、平年(8.9%,0.2%,0.0%)並の発生である。
- (2) 5月14日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し、初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少~中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、寄生新梢率が1.9%であり、平年(58.2%,5.6%)よりやや低めの発生である。
- (2) 5月14日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと見込まれており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類 (5月13日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い(前年よりやや遅い)
発生量 平年より多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 今春の予察灯調査において、ツヤアオカメムシは勝浦町では平年(4月28日)より早い4月5日に、上板町では平年(4月27日)と同時期の4月26日に初誘殺を確認した。チャバネアオカメムシは勝浦町では平年(4月29日)より早い4月20日に、上板町では平年(4月28日)と同時期の4月28日に初誘殺を確認した。
- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、10地点で越冬を確認、越冬成虫は 4.4頭/m²であり、前年(調査地点数は11地点×2か所, 成虫確認地点数は11地点, 越冬成虫数は 6.6頭/m²)並の越冬密度であった。
- (3) 5月14日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2015年	2014年	2013年	2012年	平年	2015年	2014年	2013年	2012年	平年
4.6	33	10	1	9	3	27	35	0	9	7
5.1	188	28	0	97	19	34	50	0	13	15
5.2	180	28	28	166	52	12	19	0	54	27
5.3		96	76	53	46		216	2	34	35
5.4		104	50	71	160		76	2	14	44
5.5		132	34	49	87		103	1	15	40
5.6		222	43	170	102		249	29	4	38
6.1		154	7	75	84		116	2	15	20

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2015年	2014年	2013年	2012年	平年	2015年	2014年	2013年	2012年	平年
4.6	13	2	0	37	1	9	0	0	4	2
5.1	225	12	0	22	6	38	2	0	4	2
5.2	61	4	0	22	8	6	3	0	20	20
5.3		34	6	3	9		19	0	31	17
5.4		40	5	7	18		56	0	14	17
5.5		50	20	4	33		33	1	3	11
5.6		107	19	17	21		52	9	3	9
6.1		42	3	4	16		30	0	5	6

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

II. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。